

平成28年

# 消 防 年 報

大 津 市 消 防 局

## はじめに

この消防年報は、大津市の消防現勢及び平成27年中の消防業務に関する諸般の事業を集録し、将来の参考に資するとともに、消防事情を広く一般に紹介するため編集したものであります。

なお、この消防概況は、平成28年4月1日現在をもって作成したものであります。予算関係は会計年度とし、それ以外のものについては、当該表にそれぞれ記載した年月日によるものであります。

この年報が消防関係はもとより、広く関係各位に利用され、消防行政の推進のための参考資料となれば幸いと存じます。

平成28年5月

大津市消防局長

丸 山 忠 司

# 目 次

大津市の概況 .....	1
大津市消防局のあゆみ .....	2
一目統計 .....	12
消防局機構 .....	13
消防五訓 .....	14
平成28年度消防局重点実施施策 .....	15
消防局・署所の現況 .....	16
消防局・署所の配置 .....	17
被服紹介 .....	18
■ 消防総務 .....	19
平成27年度のできごと .....	20
消防局の事務分掌 .....	21
職員勤続年数 .....	22
職員年齢 .....	23
消防職員の配置状況 .....	24
消防予算 .....	25
職員諸手当 .....	26
消防広報 .....	27
消防相互応援協定 .....	28
消防活動支援協定等 .....	29
表彰状況 .....	30
主な研修実績 .....	31
消防音楽隊 .....	32
■ 予 防 .....	33
平成27年度のできごと .....	34
火災予防 .....	36
建築物用途別同意状況 .....	40
中高層建築物の現況 .....	41
危険物施設 .....	42
平成27年 火災概況 .....	44
大津市女性防火クラブ連合会 .....	49
大津市防火保安協会 .....	49
自主防災組織 .....	50
住宅用火災警報器と地域自主防災組織の設置率 .....	51

<b>■ 警 防</b> .....	53
平成27年度のできごと .....	54
出動状況 .....	57
地区別消防水利の状況 .....	58
消防局事業による耐震性貯水槽の設置状況 .....	59
開発行為による消防水利の設置状況 .....	59
平成27年 救助概況 .....	60
各種訓練実施結果 .....	61
消防車両等配置別性能状況 .....	63
車両種別一覧 .....	65
平成27年 救急概況 .....	66
<b>■ 通信指令</b> .....	71
平成27年度のできごと .....	72
通信指令業務の概要 .....	74
一目でわかる緊急通報受付状況[平成27年中概要] .....	75
緊急通報受付統計[詳細] .....	76
FAX119番 .....	77
eメール119番 .....	78
緊急通報システム .....	79
応急手当の口頭指導について .....	80
救急医療情報案内の取扱状況について .....	81
消防通信施設 .....	82
画像伝送システム(高所監視カメラ) .....	86
<b>■ 消防団</b> .....	87
大津市消防団のあゆみ .....	88
平成27年度のできごと .....	92
消防団機構 .....	93
定数と現在数 .....	94
年齢状況 .....	95
勤続年数 .....	95
出動件数 .....	96
出動人員 .....	96
報酬及び費用弁償 .....	97
消防団員表彰 .....	98
車両等配置状況 .....	99
小型動力ポンプ(手引き等)配置状況 .....	101

## 大津市の概況

大津市は滋賀県庁の所在地で、本州のほぼ中央に位置し、琵琶湖国定公園の南西端に位置し、地形的には山と湖にはさまれた南北に細長く、京阪神と東海や北陸を結ぶ交通の要衝にあり、古くから人と物資の交流によって栄え、京阪神・中京及び北陸の三経済圏の”要所”です。

市域は、北端が丹波山地を背にした葛川細川町より比良山系をはさみ東へ越えた北小松で琵琶湖に接し、それより湖岸に沿って真野を経て、比叡・長等・音羽山系を背に更に南から東へ伸びる。瀬田川をはさんで東に広大な平地と、さらには田上山系を擁して、東端は上田上大鳥居町に達し、南端は大石小田原町に至る細長い県都であり、日本で最も大きい琵琶湖との関わりが深く、生活や産業だけでなくあらゆる面で多くの恵みを受けています。

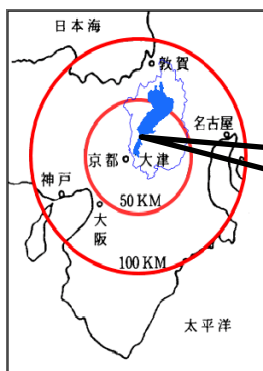
気候は、琵琶湖の緩和作用もあって気温の日較差や年較差は比較的小さく、暮らしやすいといわれていますが、湖辺周辺の市街地では、夏季の日中には気温が高くなります。

本市が誕生した明治31年10月1日に14.20km<sup>2</sup>であった面積は、隣接町村との合併・琵琶湖の境界設定による市域拡張を経て、現在では464.51km<sup>2</sup>となり、県面積(4,017.36 km<sup>2</sup>)の約11.6%を占めるに至っています。

人口は、市制施行時には32,446人でしたが、合併や住宅開発などによって、平成15年7月29日に30万人を突破し、平成21年には中核市へ移行し志賀町との合併を経て、平成28年4月1日現在342,163人となっています。

## 管轄地域地勢

方位	地名	緯度・経度	距離	隣接地名
極東	上田上大鳥居町	東経136° 03′	東西	草津市、栗東市
極西	山中町	東経135° 49′	20.6km	京都市
極南	大石小田原町	北緯 34° 52′	南北	京都府宇治田原市、甲賀市
極北	葛川細川町	北経 35° 17′	45.6km	高島市



## 大津消防のあゆみ

年	月	日	沿革	大津の主な火災
旧幕時代元禄元年			<ul style="list-style-type: none"> <li>大工、左官、手伝職等 84 人の常備消防夫を選び、消防器具、箆、火叩、蕨、溜桶、提灯、竜吐水、梯子、鳶、まとい等を備え、火災の鎮圧にあたった。</li> </ul>	
明治 28 年	10 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>勅令(第 15 号)消防組施行に基づき大津市消防組創設、組頭、部長、小頭、消防手の各階級を設ける。</li> </ul>	
大正 7 年	7 月	14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>在郷軍人会を主力として 356 人をもって従来の消防組を改組し本格的な消防組織として活躍。</li> </ul>	
昭和 8 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和 7 年 5 月 1 日滋賀村と合併、同 8 年 4 月 1 日膳所石山町と合併し、前町村を一丸とした大津市消防組を組織、組頭以下幹部 42 人、消防手 314 人 1 個大隊、4 ケ中隊を以って編成される。</li> </ul>	
昭和 10 年	3 月	28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国優良消防組として大日本消防協会、内務大臣後藤文雄閣下より表彰状並びに表彰旗を授与される。</li> </ul>	
昭和 14 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>勅令(第 20 号)警防団令施行に基づき、大津市警防団に改組。 団長以下 982 人。</li> </ul>	
昭和 18 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>警防団員中より選抜した 13 人で昼夜 2 交代勤務の常設消防隊設置。消防車 2 台が備えられた。</li> </ul>	
昭和 22 年	4 月	30 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>勅令(第 185 号)消防団令施行により大津市消防団に改組。 1 団、12 ケ分団に編成。</li> </ul>	
昭和 23 年	9 月	15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防組織法施行に基づき大津市消防本部設置。 1 本部、1 署、消防長以下職員 22 人。</li> <li>初代消防長 宮嶋 真澄氏就任。</li> </ul>	
昭和 26 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>雄琴、坂本、下阪本、大石、下田上の五ヶ村と合併、5 ケ分団を吸収。</li> </ul>	
	6 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>少年消防クラブ結成される。学校単位とする 11 クラブ。</li> </ul>	
昭和 29 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>膳所地区に膳所分遣所を設置する。</li> </ul>	
	12 月	28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>東浦垣内町に消防庁舎落成。</li> </ul>	
昭和 30 年	4 月	7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>2tタンク車「みゆき」が出勤途上横転。1 人殉職</li> </ul>	
	9 月	15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂本分団詰所を改築し、坂本分遣所を設置する。</li> </ul>	
昭和 31 年				10 月 11 日 延暦寺大講堂火災
昭和 33 年	11 月	28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防無線電話を設置する。</li> </ul>	12 月 25 日 教育会館火災
昭和 34 年				9 月 5 日 国華荘火災
昭和 35 年				10 月 21 日 滋賀紡績火災
昭和 36 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 代目消防長 中島 健之氏就任。</li> </ul>	1 月 17 日 栗津中学校火災
	12 月	22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代高層建築物に対応するため、水そう付放水搭車を購入配置する。</li> </ul>	1 月 26 日 近江学園火災
昭和 37 年	4 月	12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防法の改正に伴い、消防本部の機構を改革する。庶務、予防、消防の 3 課とし、各課に 2 係を置く。</li> </ul>	1 月 17 日 中央小学校火災

昭和 38 年	7 月	1 日 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 救急業務の法制化に先立ち新鋭救急車を購入し、本部消防課に救急隊を設置、業務を開始する。</li> <li>➤ 名神高速道路開通に伴い日本道路公団より救急車を貸与され、同路上における消防及び救急業務を担当する。</li> </ul>	
昭和 40 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中短波無線機を超短波無線に置き換え、消防通信の増強に努める。</li> </ul>	10 月 1 日 県庁別館火災
昭和 41 年	9 月	8 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中高層建築物火災に対する消防活動を果たすべく屈折はしご付自動車を購入配置する。</li> </ul>	
昭和 42 年	4 月 5 月 7 月	1 日 1 日 31 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 瀬田・堅田両町と合併、瀬田出張所を設置する。同年 7 月 25 日堅田地区に堅田出張所を設置する。1 本部 1 署 3 出張所 2 分遣所 職員 88 人</li> <li>➤ 3 代目消防長 大塚 正一氏就任。</li> <li>➤ 大津市・栗東町・志賀町間で相互応援協定を締結する。</li> </ul>	2 月 9 日 大津老人ホーム火災
昭和 43 年	11 月	19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 晴嵐出張所を竣工する。</li> </ul>	
昭和 44 年	4 月	3 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 4 代目消防長 中野 勇氏就任。</li> </ul>	3 月 5 日 膳所小学校火災
昭和 45 年	10 月	24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 高層ビル建設により 30m 級はしご車を購入する。</li> </ul>	
昭和 46 年	4 月	19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 御陵町 3-1 に新庁舎竣工移転する。</li> </ul>	
昭和 48 年	4 月	1 日 2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湖岸・湖上の消防業務の強化を図るべく消防艇を購入し、水上出張所を設置する。また婦人消防官 4 人を採用、職員 143 人となる。</li> <li>➤ 5 代目消防長 山内 三三郎氏就任。</li> </ul>	4 月 1 日 東レ織造事業所火災
昭和 49 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 特設救助隊設立発足。</li> </ul>	1 月 20 日 栗南木材火災
昭和 50 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 堅田出張所を北署に、晴嵐出張所を南署にそれぞれ昇格させ、北・中・南の 3 署体制として発足。又消防本部庶務課を総務課に、消防課を警防課に改め、南郷分遣所を廃止する。1 本部・3 署・4 出張所・1 分遣所、職員 164 人となる。</li> <li>➤ 隣接志賀町より消防業務の委託を受け、志賀出張所を開設し職員 10 人を配置する。</li> </ul>	3 月 27 日 本繁木材火災
昭和 51 年	7 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 6 代目消防長 野田 初太郎氏就任。</li> </ul>	3 月 7 日 清元桜火災
昭和 53 年	5 月	16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 北消防署新庁舎の竣工、同署敷地内に訓練塔付帯施設を建設して総合訓練場とする。また屈折はしご付自動車を購入同署に配置する。</li> </ul>	2 月 16 日 ホテル紅葉火災 6 月 15 日 芳月楼旅館火災
昭和 54 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 救助工作車購入、中消防署に配置する。</li> <li>➤ 坂本出張所庁舎改築。</li> </ul>	6 月 22 日 丸栄百貨店火災
昭和 55 年	4 月 10 月	1 日 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 化学消防自動車を購入、南消防署に配置する。</li> <li>➤ 藤尾分遣所を設置し職員 2 人を配置する。</li> </ul>	
昭和 56 年	7 月 10 月	7 日 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 南消防署瀬田出張所の庁舎を改築・移転する。</li> <li>➤ 人口増加が著しい瀬田学区に対処するため瀬田出張所を分署に昇格させ職員 18 人を配置する。</li> </ul>	
昭和 57 年	2 月 4 月	4 日 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 南郷分遣所を再開し職員 2 人を配置する。</li> <li>➤ 7 代目消防長 勝見 信孝氏就任。</li> </ul>	

昭和 58 年	9 月	30 日	➤ 南消防署に 20m 級屈折はしご付消防車(3 節 21m)を購入して配置。	
昭和 60 年	2 月	1 日	➤ 緊急指令体制を強化すべく、通信指令室の設備を一新し、新しい消防救急指令システムをスタートさせる。	
	4 月	1 日	➤ 志賀町における消防体制の充実強化のため志賀出張所を分署に昇格させ職員 13 人を配置する。	
	7 月	15 日	➤ 電話交換機(クロスバー方式)の老朽化に伴い、OA 機器と接続可能な多種機能を有する電子式電話交換機に更新する。	
	12 月	9 日	➤ 緊急無線通信指令の統制を図るべく無線指令台を導入する。	
昭和 61 年	2 月	13 日	➤ 東消防署、消防団瀬田分団庁舎竣工。(訓練塔等付帯設備を建設して総合訓練場とする。)	
	4 月	1 日	➤ 市東南部地域の発展に基づく消防体制の強化充実を図るため、南消防署瀬田分署を東消防署に昇格させた。 ➤ 1 本部・4 署・1 分署・2 出張所・3 分遣所、職員 197 人となる。	
	9 月	1 日	➤ 気象情報収集の完全自動化を図るため、通信指令室に防災用総合気象観測装置を導入する。	
昭和 62 年	1 月	8 日	➤ 東消防署に 30m 級新鋭はしご車を購入し配置する。	2 月 2 日 琵琶湖グランドホテル火災
	4 月	1 日	➤ 8 代目消防長 森田 進氏就任。 ➤ 消防本部警防課を輻輳化する消防事務を円滑に遂行するため警防課と予防課に分離し、通信指令室を警防課に統合した。 ➤ 消防行政 PR、職員の士気高揚及び市民と融和を図るため消防音楽隊を設立発足させた。	
	11 月	7 日	➤ 救急業務の円滑化を図るため、救急弱者(2,000 人)を対象に安心カードを配布。	
		25 日	➤ 大津市・志賀町婦人防火クラブ連合会結成。婦人消防隊 60 隊 1,700 人。	
	12 月	14 日	➤ 新鋭救助工作車購入。	
昭和 63 年	3 月	28 日	➤ 志賀分署新庁舎竣工。	7 月 19 日 大津紡績火災
	5 月	1 日	➤ 南消防署南郷分遣所を南郷出張所に昇格させた。	
	9 月	26 日	➤ 琵琶湖総合開発に伴い、新消防艇「おおつ」を就航させ湖岸・湖上の強化を図った。	
	10 月	1 日	➤ 消防法の改正に伴い、中消防署に専任救助隊を配置し、救助体制の強化を図った。 ➤ 通信指令業務の迅速かつ的確な処理及び指揮命令系統の統一化のため、通信指令室を警防課から独立させ充実強化を図った。	
		15 日	➤ 北消防署に 30m 級新鋭はしご車を更新し配置した。	
平成元年	10 月	1 日	➤ 東消防署に専任救助隊を設置し、救助体制の強化を図った。	
平成 2 年	5 月	22 日	➤ 水上出張所を大津港合同艇庫に移転。	



	9月	10日	➤ 指令業務及び救急業務の充実強化を図るため、緊急通信システムの運用開始。	
平成3年	4月	1日	➤ 9代目消防長 中山 定雄氏就任。	
平成4年	3月	22日	➤ 消防音楽隊発足5周年記念演奏会を開催。	
		27日	➤ ますます増加する中高層建物の災害に対応するため40m級新鋭はしご車を購入配置した。	
	5月	13日	➤ 坂本出張所の庁舎を新築・移転する。	
平成5年	1月	12日	➤ 救急高度化推進事業に基づき、救急救命士制度の運用を開始する。	3月14日 指圧建具店火災
	4月	1日	➤ 10代目消防長 西村 勇氏就任。	11月8日 滋賀青果物流センター火災
平成6年	6月	1日	➤ 救急高度化推進事業に係る救急救命士24時間体制の運用を開始する。	6月6日 松本加工業所火災
	9月	30日	➤ 藤尾分遣所及び膳所分遣所を廃止し、1本部・4署・1分署・3出張所体制とする。	
平成7年	1月	17日	➤ 阪神・淡路大震災の発生に伴い、滋賀県応援隊として当本部から延べ7日間、64人の職員を神戸市(長田区)に派遣する。	8月10日 シルキー大津工場火災
	3月	28日	➤ 市域南部地域における防災拠点である南消防署庁舎を新築・移転する。	
	4月	1日	➤ 11代目消防長 長田 征利氏就任。 ➤ 中消防署坂本出張所並びに東消防署に設置の特別救助隊を中消防署並びに南消防署にそれぞれ配置転換する。 ➤ 職員数260人となる。	
	8月	28日	➤ (社)日本損害保険協会から寄贈を受けた救助工作車を市北部地域の救助体制強化を図るため、北消防署に配置。	
平成8年	2月	27日	➤ 応急手当普及啓発広報車を南消防署に配備。	8月2日 人神高速道路上り線大津IC付近タンクローリー火災
		29日	➤ 新指令システム機器導入に向け、通信指令室の増築工事完了。	11月13日 関西フィッシュ火災
	3月	27日	➤ 災害支援活動の拠点となる災害支援車を中消防署に配備。	
平成9年	4月	1日	➤ 新消防緊急情報システム(Ⅱ型)運用開始。	10月30日 大平山山林火災
平成10年	4月	1日	➤ 12代目消防長 小畑 光美氏就任。 ➤ 消防職員の条例定数276人となる。(実数272人)	
	10月	1日	➤ 北消防署志賀分署の人員を21人に増員。 ➤ 大津市消防団からなるカラーガード隊(愛称オツファイヤーウィングス)が大津市制100周年記念式典において初披露。	
	11月	7日	➤ 自治体消防発足50周年記念事業の一環として市民プラザにて防火防災推進大会を実施。市民など1,700人が参加。	
		28日	➤ 大津市制100周年記念、自治体消防発足50周年記念及び消防音楽隊発足10周年記念演奏会を開催。	

平成 11 年	3 月	7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大津市制 100 周年記念、自治体消防発足 50 周年記念及び大津消防発足 50 周年を記念して、記念誌「大津消防のあゆみ」を発刊。</li> </ul>	
	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 消防本部名を「大津市消防局」に名称を変更。</li> <li>➤ 職員数 276 人となる。(条例定数 276 人)</li> </ul>	
	10 月	21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 横浜市にて第 14 回全国婦人消防操法大会が開催され、山上町婦人消防隊が出場。</li> </ul>	
	12 月	11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第 6 回防火防災推進大会においてカラーガード隊 1 周年記念公演が行われた。</li> </ul>	
		31 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コンピューター西暦 2000 年問題に対応し、特別警戒体制を実施。</li> </ul>	
平成 12 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 13 代目消防局長 中西 昭氏就任。</li> <li>➤ 職員数 276 人となる。(条例定数 278 人)</li> <li>➤ 防災事務移管に伴い防災課新設(課員 6 人)</li> </ul>	
	4 月	19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 超高感度カメラで被災状況をいち早く映像にとらえ衛星通信技術で防災活動を展開する「画像伝送システム」を導入し運用を開始した。</li> </ul>	
	5 月	11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 第 53 回全国消防長会救急委員会を大津市において開催。</li> </ul>	
		22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 南消防署に 24m 級新鋭はしご車を購入し配置する。</li> </ul>	
平成 13 年	3 月	21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 救急高度化事業に係る救急 7 隊運用に伴う高規格救急車を南郷出張所に配備する。</li> </ul>	
	3 月	30 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ (社)日本損害保険協会から高規格救急車の寄贈を受け、中消防署に配備する。</li> </ul>	
	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 職員数 278 人となる。(条例定数 278 人)</li> </ul>	
		2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 坂本出張所を中消防署西分署に昇格し 21 人の職員を配備する。</li> </ul>	
		10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大津市消防局ホームページを開設。</li> </ul>	
		28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 神戸市で開催された第 4 回全国消防音楽隊フェスティバルに大津市消防音楽隊・大津市カラーガード隊が参加した。</li> </ul>	
	9 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 膳所小学校とその周辺街区において、初めての試みである町並みを活用した実践的な訓練として大津市総合防災訓練を実施した。</li> </ul>	
平成 14 年	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 14 代目消防局長 中山 芳雄氏就任。</li> <li>➤ 職員数 282 人となる。(条例定数 281 人)</li> <li>➤ 中消防署及び南消防署に消防次長(署長兼務)を配置すると共に、副署長制を整備し、消防署所の管理体制強化を図った。</li> </ul>	12 月 27 日 大津クリーンセンター 火災
	10 月	19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大津市防火保安協会創立 50 周年記念式典を開催。</li> </ul>	
平成 15 年	3 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 東消防署に 30m 級新鋭はしご車を購入し配置する。</li> </ul>	5 月 6 日 関西日本電気大津工場火災
	4 月	1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 15 代目消防局長 西岡 義雄氏就任。</li> </ul>	
		21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 救急救命士法施行規則改正により包括的指示下での除細動行為を開始。</li> </ul>	
	9 月	15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 志賀町北浜沖において 12 人乗りのヨットが転覆・沈</li> </ul>	

			没、内 7 人が行方不明となり消防・警察等関係機関、ボランティアによる捜索活動を延べ 23 日にわたり実施した。	
平成 16 年	4 月	22 日	➤ 災害現場の状況を画像により確認するため、中救助 1・南救助 1 にカメラを搭載する、車載式画像伝送システムの運用を開始した。	
	7 月	18 日	➤ 福井県豪雨災害に伴い緊急消防援助隊滋賀県隊として鯖江市に初出動する。	
		29 日	➤ 市内大型ホテルにおいて集団救急事故(食中毒)が発生し、宿泊客 152 人を病院へ搬送する。	
	10 月	2 日	➤ 浜松市で開催された第 5 回全国消防音楽隊フェスティバルに大津市消防音楽隊・大津市カラーガード隊が参加。	
		21 日	➤ 兵庫県豊岡市豪雨災害に伴い緊急消防援助隊滋賀県隊として二度目の出動。	
		21 日 22 日	➤ 平成 16 年度近畿府県合同防災訓練を大津市・志賀町において実施。	
平成 17 年	4 月	1 日	➤ 大津市機構改革に伴い防災課を市・総務部へ移設。さらに、総務課、市民安全課を消防総務課、警防課と名称変更した。	5月15日 大津駅周辺で連続放火
		21 日 22 日	➤ 第 96 回全国消防長会東近畿支部総会を大津市において開催。	
	6 月	10 日 11 日	➤ 静岡市で実施された第 3 回緊急消防援助隊全国合同訓練に滋賀県隊として参加。	
		10 日	➤ 市内大型店舗における塩素ガスの漏洩事故により負傷者 32 人発生。	
		13 日	➤ 救急高度化推進事業に係る気管挿管の実施が認められた救急救命士が初めて誕生。	
	12 月	20 日	➤ 南消防署に水槽付きポンプ自動車を購入し配備した。	
		22 日	➤ 携帯電話による 119 番通報を管轄する消防本部が直接受信する方式に移行。	
平成 18 年	4 月	1 日	➤ 職員の条例定数 302 人となる。(実員 285 人)	8月12日 東レ関瀬田工場火災
	10 月	1 日	➤ 大津市民病院に中消防署救急出張所を開設し、専任救急隊を 8 隊とする。	
	12 月	1 日	➤ 消防局 3 課(消防総務、予防課、警防課)を耐震性能を有する市役所新館へ移転した。	
		15 日	➤ 中消防署の車庫に耐震補強工事を行い庁舎の安全を確保した。	
		22 日	➤ 中消防署の救急車を更新し配備した。	
平成 19 年	3 月	25 日	➤ 石川県能登半島沖地震に伴い、緊急消防援助隊滋賀県隊として輪島市へ出動する。	
	4 月	1 日	➤ 市役所新館低層階に、消防局の各機能と防災施設を集約させた、大津市防災総合監視センターの運用を開始した。	
			➤ 受信体制の充実と消防隊等の効果的な運用を図るため、高機能消防指令システムを導入した。	
	12 月	7 日	➤ 中消防署西分署の救急車を更新し配備した。	

		19日	➤ 中消防署に新鋭救助工作車を更新し配備した。	
平成20年	1月	1日	➤ 大規模災害等あらゆる災害に対応すべく、高度救助隊(おおつスーパーレスキュー)を発足し運用を開始した。	
	4月	1日	➤ 16代目消防局長 田中 賢治氏就任。 ➤ 職員数289人となる。(条例定数302人) ➤ 消防署組織の管理体制強化を図るため、署長を次長級職員とし全署に副署長を配置した。	
	12月	3日	➤ 北消防署の水槽付きポンプ自動車及び南消防署南郷出張所の救急車を更新し配備した。	
平成21年	4月	1日	➤ 職員数291人となる。(条例定数302人)	
		10日	➤ 青山市民センターに東消防署青山救急出張所を開設し、専任救急隊を9隊とする。	
	10月	1日	➤ 予防課を安全指導係、設備係、危険物係及び調査係に再編するとともに、各署に安全指導係を創設した。	
	11月	18日	➤ 中消防署救急出張所の救急車を更新し配備した。	
	12月	3日	➤ 火災予防体制強化のため予防課の広報車を更新した。	
平成22年	1月	20日	➤ 中消防署西分署の消防ポンプ自動車を更新し配備した。	
	3月	20日	➤ 市内在住者から高規格救急車の寄贈を受け、北消防署の救急車を更新した。	
	3月	25日	➤ 国際消防救助隊(IRT)発足式を市長、市議会議長を迎え開催した。	
	4月	1日	➤ 職員数300人となる。(条例定数303人) ➤ 大規模災害発生時に市民センター機能と自主防災組織の連携を図るため、木戸市民センター2階に北消防署志賀分署を移転した。 ➤ 国際消防救助隊編成協力市町村として国際消防救助隊員6人を登録した。 ➤ 固定電話による新発信地表示システムと携帯電話・IP電話による位置情報通知システムの複雑化を解消するため、統合型位置情報通知システムを更新した。	
	6月	4日	➤ 愛知県で実施された「第4回緊急消防援助隊全国合同訓練」に滋賀県隊として参加。	
	10月	29日	➤ 南消防署の救急車を更新し配備した。	
	平成23年	2月	1日	➤ 北消防署に10隊目の専任救急隊を配置し救急体制の強化を図った。
	2月	16日	➤ 中消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新し配備した。	
	3月	11日	➤ 東日本大震災の発生に伴い、滋賀県緊急消防援助隊として当消防局から22日間、延べ476人の職員を福島県に派遣する。	

	4月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 職員数 305 人となる。(条例定数 327 人)</li> <li>➤ 17 代目消防局長 田中 秋次氏就任。</li> </ul>	
	9月	4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 台風12号に伴う大雨により土砂災害発生危険があるため、葛川学区 59 世帯 119 人に対して避難勧告が発令、消防局 4 隊、北署 2 隊計 20 人が出動。</li> </ul>	
	10月	29日 30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 徳島県で実施された「緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練」に滋賀県隊として参加。</li> </ul>	
平成 24 年	2月	20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 東消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新し配備した。</li> </ul>	7月24日 日伸工業㈱大津工場火災
		28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 北消防署の救急車を更新し配備した。</li> </ul>	
	4月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 18 代目消防局長 新宮 裕氏就任。</li> <li>➤ 職員数 310 人となる。(条例定数 327 人)</li> <li>➤ 消防局の企画立案機能の強化並びに消防広報体制の充実を図るため、消防総務課に企画広報係を新設。</li> </ul>	
	8月	14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 市南部の局地的な集中豪雨により甚大な被害が発生し 380 世帯 1,027 人に対して避難勧告が発令。消火、水防活動から復旧活動まで終始総力を挙げて対応した。</li> </ul>	
	10月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 県内で初となる 24 時間体制の専任指揮隊を中消防署に新設。</li> </ul>	
		11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 平成 24 年度全国消防長会東近畿支部秋季役員会を大津市において開催。</li> </ul>	
	12月	14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 住宅火災が多発したことから「住宅火災多発非常事態宣言」を発令した。</li> </ul>	
平成 25 年	3月	7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 消防五訓を制定する。</li> </ul>	
		12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 北消防署志賀分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新し配備した。</li> <li>➤ 東消防署の高規格救急車を更新し配備した。</li> </ul>	
	4月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 19 代目消防局長 丸山 忠司氏就任。</li> <li>➤ 職員数 316 人となる。</li> </ul>	
	8月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 住宅火災が相次いだことから火災注意報を発令。</li> </ul>	
	9月	15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大津市消防局・消防団発足 65 周年にあたり記念式典を開催。</li> </ul>	
		16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 台風 18 号の影響で 15 日夜から豪雨となり、16 日 5 時 05 分に全国初の大雨特別警報が発令。職員 310 人(うち非番召集 178 人)、消防団 791 人(36 分団)が出動し総力をあげて災害対応にあたった。</li> </ul>	
	10月	26日 27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練を滋賀県で開催。企画、運営、訓練参加等多岐にわたり参加。消防庁から高い評価を受ける。</li> </ul>	
		31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 北部地域総合消防防災センター起工式を挙行政した。</li> </ul>	
	11月	1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 南消防署に2隊目となる専任指揮隊が発足。</li> <li>➤ 県内で初となる災害対応用のタブレット式端末を各消防署に配備した。</li> </ul>	
平成 26 年	1月	9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 南消防署の消防ポンプ自動車を更新し配備した。</li> </ul>	
		20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ㈱カネカ滋賀工場及び日本精工㈱大津工場と消防</li> </ul>	

			活動支援協定を締結。	
	2月	12日	➤ 北消防署志賀分署の救急車を更新し配備した。	
	3月	1日	➤ 消防局ホームページをリニューアルした。	
		26日	➤ 消防救急デジタル無線運用開始。	
	4月	1日	➤ 職員の条例定数 329 人となる。(実員 321 人) ➤ 再任用制度を開始。 ➤ 横断的かつ組織的な災害対応を実践するために、4 署を総括・管理する消防統括監(部長級)を設置。 ➤ 救急分野の高度化及び専門化に的確に対応するため消防局警防課に救急高度化推進室を設置。	
	5月	21日	➤ ロイヤルオークホテル、大津プリンスホテル、浜大津アーカス(琵琶湖ホテル)及び琵琶湖グランドホテルと施設等の使用に係る消防活動支援協定締結。	
	8月	1日	➤ 下阪本小学校で市内の小学生及び保護者を対象に避難所運営・宿泊訓練を実施。46人が参加し、幼少期における防火防災意識の高揚を図った。	
		2日		
	8月	20日	➤ 広島市で発生した土砂災害を受けて、危機・防災対策課合同の緊急会議を開催。後に、市内の土砂災害警戒区域全てをパトロールし結果をまとめ関係機関との情報の共有化を図る。	
	10月	1日	➤ 防火服 214 着を更新。	
	11月	16日	➤ びわ湖ホールで住宅防火防災シンポジウムを開催。約 550 人が参加し、住宅防火の啓発を行った。	
	12月	3日	➤ 救急ワークステーションの試行運用開始	
平成 27 年	1月	15日	➤ 新庁舎に北消防署の機能を移転した。	
	3月	23日	➤ 3 代目消防艇「おおつ」【愛称:湖都風(ことかぜ)】運用開始。	
	4月	1日	➤ 短時間による再任用制度を導入。 ➤ 特別救助隊に救急救命士を配置し、傷病者に対する救命率の向上と後遺症の低減を図る。	
	6月	1日	➤ 大津市内全ての漁業組合(8 組合)と消防活動支援協定を締結。	
		3日	➤ 近年の局地的集中豪雨等の対応するため土のうステーションを設置(南署管内)	
	10月	17日	➤ 緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練(開催地:京都府)に、県大隊長、県大隊指揮隊、後方支援小隊、救助小隊として参加。 ➤ 全国で初となる滋賀県全ての消防と滋賀県警察本部が「警察消防相互応援協定」を締結。 ➤ 住民の災害対応力向上と自助・共助への意識の普及、高揚に資することを目的に土砂災害対応型総合訓練を実施。(中署管内大谷町地先)	
		18日		
		19日		
	11月	7日	➤ 住民の災害対応力向上と自助・共助への意識の普及、高揚に資することを目的に土砂災害対応型総合訓練を実施。(南署管内若葉台地先)	
		13日	➤ 第5回緊急消防援助隊全国合同訓練(開催地:千葉県)に、県大隊長、県大隊指揮隊、後方支援小隊として参加。航空機対応訓練を実施。	
		14日		
	12月	1日	➤ 滋賀県との間に「防災映像情報の交換に関する協	

		25日	<p>定」を締結。災害発生時、迅速かつ的確に災害情報を把握し相互に連携を図る。</p> <p>➤ 北消防署の資材車を更新し配備した。</p>	
平成 28 年	1月	25日	<p>➤ 災害用無人航空機(マルチコプター別名:ドローン)の本格運用開始。</p>	
	2月	1日	<p>➤ 高所監視カメラ(デジタルハイビジョン映像化)の整備更新をした。</p>	
	3月	18日	<p>➤ 北部地域総合消防防災センター竣工式。</p>	
		1日	<p>➤ 中消防署の救急車を更新し配備した。</p> <p>➤ 北部地域総合消防防災センターの運用開始とともに、「燃焼実験室」及び「火災調査・危険物判定室」を設置する。</p>	
		2日	<p>➤ 一般社団法人滋賀県建設業協会大津支部と消防活動支援協定を締結。(重機要請等)</p>	
		14日	<p>➤ 大津北警察署との間に「警察消防相互応援協定の運用に関する覚書」を締結。</p>	
		25日	<p>➤ 大津赤十字病院、国立大学法人滋賀医科大学附属病院及び大津市民病院と病院派遣型救急ワークステーションの運用に関する協定を締結。</p>	
		29日	<p>➤ 東レ株式会社瀬田工場と消防活動支援協定を締結。</p>	
	4月	1日	<p>➤ 職員数 323 人となる。(条例定数 329 人)</p> <p>➤ 危機事案全般にわたり迅速的確に対応するとともに、消防局内の各種情報を一元管理し危機事案発生を未然に防止することを目的に、消防総務課内に危機管理室を設置。</p> <p>➤ 火災予防条例及び規則の改正を行い、違反対象物公表制度の運用を開始。</p> <p>➤ 病院派遣型救急ワークステーションの本格運用を開始。</p>	

## 一目統計

[平成28年4月1日現在]

### 大津市概要

大津市面積	464.51 km <sup>2</sup>
大津市人口	342,163 人
大津市世帯数	144,143 世帯
大津市予算(一般会計)	1,058億4700万 円

### 消防職員数・消防団員数

消防職員	消防職員数 (内再任用者)	327 人 ( 5 人 )
	女性消防職員	8 人
消防団員	消防団員	1,297 人

### 組織概要

消防局	消防局	4課 2室
	消防署	4 署
	分署	2 分署
	出張所	4 出張所
消防団	本部	1 本部
	分団	36 分団

### 消防予算

消防費	32億6789万9千円
	3.09%(一般会計比)
	市民一人当たり約9551円

### 災害件数等(平成27年中)

火 災	72 件
救 助	231 件
救 急	16,326 件
緊急通報総着信数	24,561 件

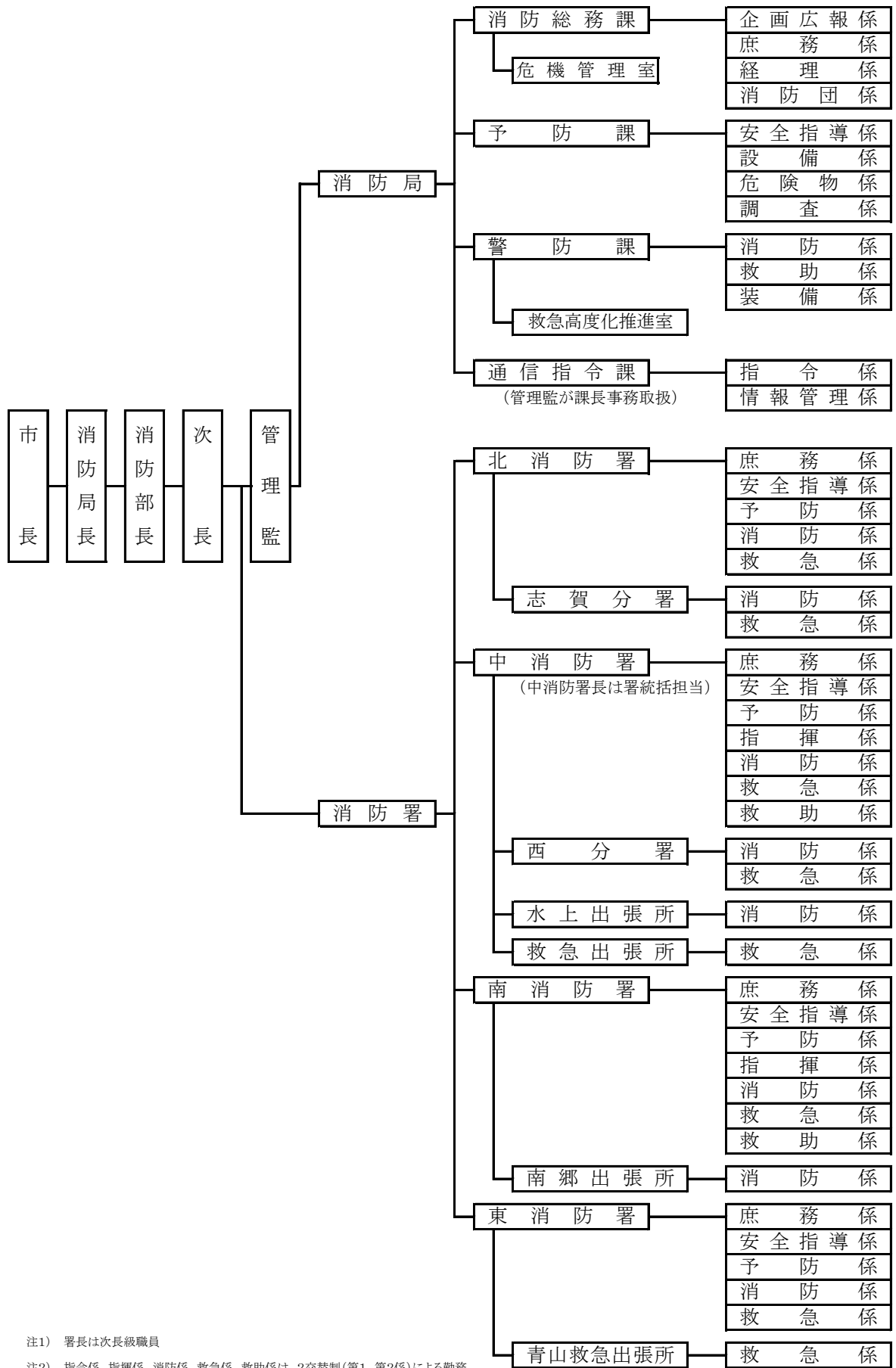
### 自主防災組織及び住宅用火災警報器の設置率

学区自主防災組織設置率	100 %
地域(自治会)自主防災組織設置率	93.4 %
住宅用火災警報器設置率	83.3 %



# 消防局機構

[平成28年4月1日現在]

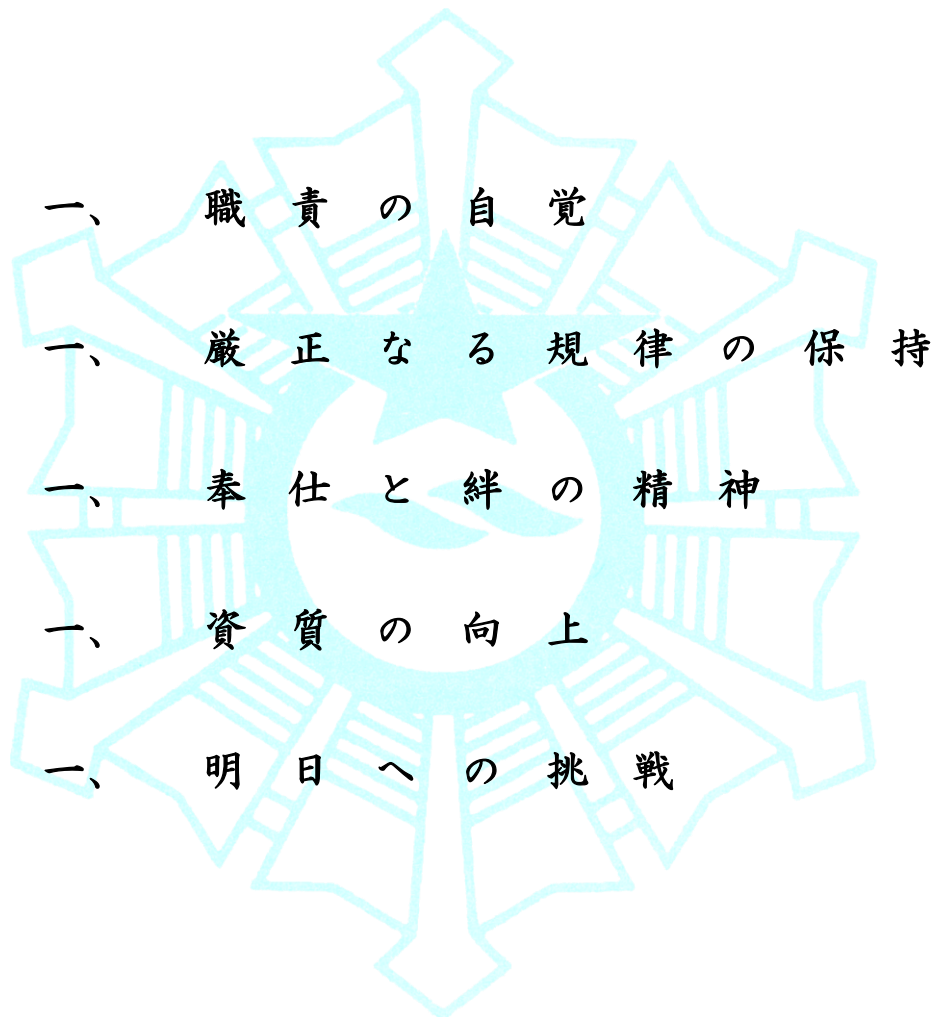


注1) 署長は次長級職員

注2) 指令係、指揮係、消防係、救急係、救助係は、2交替制(第1、第2係)による勤務

## 消防五訓

昭和23年に制定されました消防組織法に基づき、同年9月15日に大津市消防本部が設置されました。その後、移転や署所の拡充、本部名の変更などを経て、創立65周年を迎えた平成25年3月7日に全職員が目指すものを共有するとともに、消防局を偲ぶ言葉として制定しました。



1 市総合計画第3期実行計画に基づく事業推進

- (1) 消防組織体制の強化
- (2) 防火安全対策の推進
- (3) 情報通信機器等の整備充実
- (4) 救急高度化の推進

2 消防業務全般に亘り「継承と改革」の視点を持って

- (1) 災害活動を通じて「継承と改革」を積極的に推進し  
具体的な内容を示し消防局として統一する。
- (2) 消防事務を通じて「継承と改革」を積極的に推進し  
具体的な内容を示し消防局として統一する。

3 消防広報体制の強化

- (1) 消防局と消防署が一体となり常に最新情報を掲載して  
消防局ホームページ等の充実を図り市民に正しく配信する。
- (2) 消防音楽隊による消防広報活動を引き続き積極的に実施する。
- (3) 子どもを対象とした積極的な消防広報を展開する。

4 消防団との連携強化

- (1) 消防団と連携して地域自主防災組織等と一体となった  
土砂災害対応型防災訓練の実施に努める。
- (2) 消防団地域防災指導員による地域防災支援活動を積極的に支援する。

5 風通しの良い職場づくり

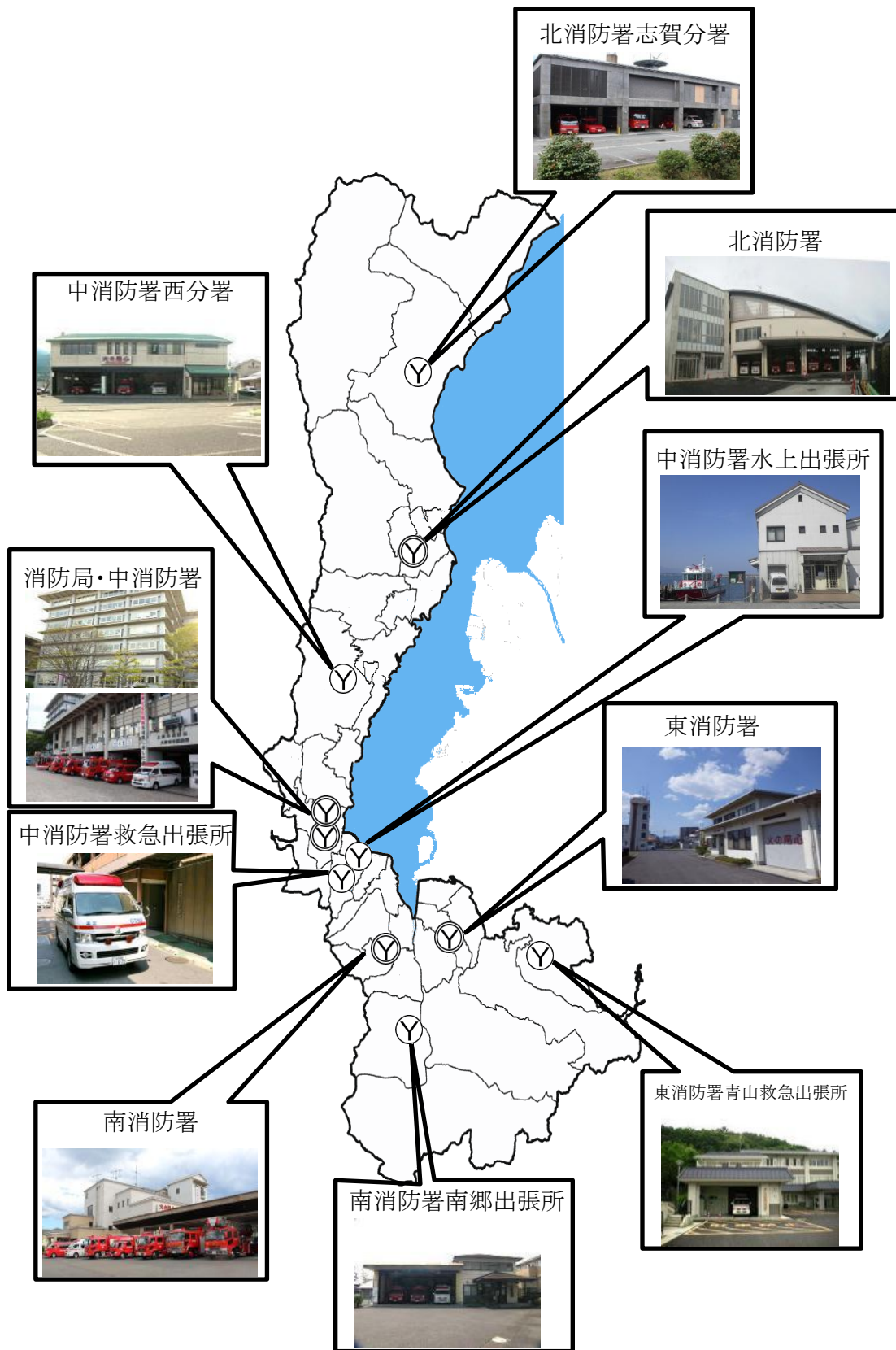
- (1) 消防局業務改善報告書に基づき職場環境等の改善により  
パワハラ、セクハラをはじめとする不祥事等の根絶に努める。
- (2) 消防局交通事故防止対策検討委員会を核とし常に目標を掲げ  
全消防職員参加型の実践的な交通事故防止対策に取り組む。

## 消防局・署所の現況

[平成28年4月1日現在]

名称	所在地	建物構造等	建築延べ面積㎡
大津市消防局 消防総務課 危機管理室 予防課 警防課 救急高度化推進室 通信指令課	大津市御陵町3番1号 大津市役所新館 電話(代)077-522-0119	鉄骨鉄筋コンクリート造 7階建 (1階・2階の一部) 平成元年3月建築	10947.81 (908.99)
大津市中消防署	大津市御陵町3番1号 大津市役所別館 電話 077-525-0119	鉄骨鉄筋コンクリート造 3階建 (1階・2階の一部) 昭和46年4月建築	6170.8 (1524.27)
大津市中消防署 西分署	大津市坂本三丁目27番33号 電話 077-579-0119	鉄骨造 2階建 平成4年4月建築	591.44
大津市中消防署 大津水上出張所	大津市浜大津五丁目1番 電話 077-522-2203	鉄骨造 2階建 平成2年4月建築	82.96
大津市中消防署 救急出張所	大津市本宮二丁目9番9号 大津市民病院管理棟 電話 077-526-0119	鉄骨造 3階建(1階の一部) 昭和54年3月建築	56.42
大津市北消防署 (北部地域総合消防 防災センター)	大津市真野二丁目23番1号 電話 077-572-0119	庁舎棟 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造)3階建 訓練塔 鉄骨造6階建 平成28年2月建築	3575.38
大津市北消防署 志賀分署	大津市木戸58番地 電話 077-592-0119	鉄筋コンクリート造 3階建(2階の一部) 平成11年12月建築	6167.31 (1725.95)
大津市南消防署	大津市光が丘町5番7号 電話 077-533-0119	鉄筋コンクリート造 3階建 平成7年3月建築	2256.45
大津市南消防署 南郷出張所	大津市南郷一丁目11番1号 電話 077-537-0119	鉄骨造 2階建 昭和63年4月建築	295.22
大津市東消防署	大津市大江四丁目18番1号 電話 077-543-0119	鉄筋コンクリート造 2階建 昭和60年12月建築	986.47
大津市東消防署 青山救急出張所	大津市青山五丁目13番36号 電話 077-549-3799	鉄筋コンクリート造 2階建 平成21年4月建築	188.80

# 消防局・消防署所の配置



# 被服紹介

## ■制服



## ■盛夏服



## ■消防隊



## ■救急隊



## ■救助隊



## ■防火服

